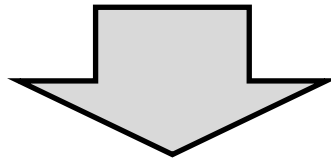


○ 教科【国語科】

1 児童の状況及び実態

- ・平仮名の読みが100%定着している児童は98%で、言葉集めや言葉遊びにすすんで取り組んでいる。一方、書きに関しては、似ている平仮名や書き順の定着が不十分な児童がいる。
- ・図書室での読書の時間や読み聞かせを楽しみにしているが、図鑑や遊びの本を好む児童が多い。
- ・平仮名を拾い読みすることはできるが、単語として捉えることができない児童もいる。(20%程度)
- ・思いついたことをそのまま話したり書いたりしてしまうので、意味が伝わらないことがある。(10%程度)
- ・作文において、促音や長音が抜けたり、助詞「は」「を」「へ」を間違っって表記したりしてしまう。(15%程度)
- ・語彙力や文を読んだり書いたりする力の個人差が大きい。



2 学習についての課題

【知識及び技能】

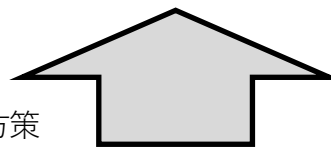
- ・平仮名を正しい字形や書き順で書く力が未定着である。
- ・促音や長音、助詞「は」「を」「へ」の使い方の理解が不十分で、文中で正しく使えない児童が一定数いる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・語と語の続き方や文と文の続き方に気を付けて書く力が不十分である。
- ・事柄の順序を考えて話すことに課題がある。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・読む本の種類が偏ってしまう児童が多い。
- ・書いたことを読み返さない児童が一定数いる。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・授業の中で音読をする場面においては、語のまとまりを意識しながら音読できるように、教師が範を示し、後に続いて繰り返し音読させる。
- ・朝学習の時間を活用して、促音や長音、助詞の使い方を繰り返し学習し、着実に定着させる。

【思考・判断・表現】

- ・教科書の文を視写したり、文の練習プリントに取り組みせたりするなど、正しい文を書く機会を多くとる。
- ・朝の会にスピーチを取り入れ、「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」の形で話す力を身に付けさせる。

【主体的に学習に取り組む態度】

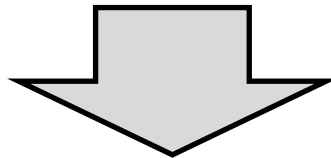
- ・様々な物語や絵本に触れる機会を作り、読書への興味関心が高まるようにするために、司書と連携しながら、図書の時間に物語の本のブツトークを行う。
- ・言葉や文を書いたら、正しく書けているかどうか読み直す習慣を身に付けさせるために、振り返りの時間を

十分に確保する。また、友達と書いたものを読み合うことで、間違いに気付けるようにする。

○ 教科【算数科】

1 児童の状況及び実態

- ・計算において、正答はできるが、ブロックや指を使わないと答えを導くことができない児童がいる。(30%程度)
- ・数の合成分解を正しくできない児童がいる。(5%)
- ・引き算の問題場面を正しく捉えるのが難しく、式を導くことができない児童がいる。(5%)
- ・文章問題の答えが正しく書けない児童がいる。(10%)



2 学習についての課題

【知識及び技能】

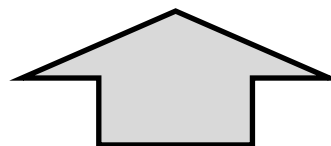
- ・10までの数の合成・分解の理解が十分である。
- ・求差の問題場面の意味の理解が不十分で、正しく立式できない児童が一定数いる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・文章問題において、問題場면을的確に捉え、式を導くことに課題がある。
- ・文章問題において、問題に出てくる数にのみ着目してしまい、問題場면을正しく捉えられていない児童が一定数いる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・他の解決方法のよさを感じられず、自分の解決方法にこだわってしまいがちである。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・授業の始めに、フラッシュカードを用いた繰り上がりのない簡単な計算の練習に取り組みさせることで、1位数同士の和を求める技能10の補数の概念を定着させる。
- ・朝学習の時間に、繰り返し計算の練習をさせ、計算に慣れさせる。

【思考・判断・表現】

文章問題における方策

- ・「何が分かっているか」「何を聞かれているのか」が分かる箇所に○を付けたり線を引いたりすることで、問題場면을正しく捉えられるようにする。
- ・演算決定となる言葉を根拠に、「なぜその式になるのか」を常に考えることで、問題場面を読み取る力を養う。
- ・言葉だけで理解できない児童には、具体物や半具体物を操作させたり、絵図を活用させたりすることで問題

場面をイメージできるように支援する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・多様な解決方法のよさを感じられるように、一つの方法だけではなく多様な解決方法を考えさせたり、友達の考えた方法で問題に取り組ませたりさせる。